

会 議 録

会 議 名 称	令和元年度 第 1 回加古川市スポーツ推進審議会
開 催 日 時	令和元年 7 月 10 日（水）午後 3 時 30 分から午後 4 時 45 分まで
開 催 場 所	勤労会館 101 会議室
出 席 者	< 委員 > 森田会長、中谷副会長、戎木委員、三上委員、堀委員、 小寺委員、工藤委員 < 市 > 小南教育長、山本部長、杉本次長、井上課長、福島課長 大山担当課長、川上副課長、小口担当副課長、下尾書記
会 議 次 第	開 会 1 会長あいさつ 2 教育長あいさつ 3 報告事項 （１）スポーツ施設再編計画について （２）市内スポーツ施設の改修について （３）東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に係る本市の取組状況について 4 審議事項 （１）加古川市スポーツ推進計画関連事業の進捗について （２）その他 閉 会

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
開 会	
1 会長あいさつ	会長あいさつ
2 教育長あいさつ	教育長あいさつ
3 報告事項	（１）スポーツ施設再編計画について （２）市内スポーツ施設の改修について < 事務局説明 >
（委員）	公共施設の中で、東京 2020 オリンピック競技種目であるスポーツクライミング（ボルダリング）をできる施設が加古川市には無い。スペースや安全性の問題はあるが市として検討してみてはどうか。

(事務局)	オリンピック競技種目も多様化し、ボルダリングやスケートボードのできる場所が欲しいという意見を聞くこともあるが、検討の段階まで至っていない。いろいろなご意見を伺いながら調査していきたい。
(会長)	今回のスポーツ施設再編計画は公共施設等総合管理計画と別物なのか。
(事務局)	スポーツ施設再編計画は加古川市公共施設等総合管理計画を基に策定されており、文化施設やスポーツ施設などを具体化した個別計画である。
(会長)	他市町でもボルダリングやスケートボードなどをする人が増えており、スポーツを取巻く環境が変わってきている。スポーツの多様化に対応できるよう、スポーツ施設について議論する必要があるのではないか。
4 審議事項 (事務局)	(3) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に係る本市の取組状況について ＜事務局説明＞
	(1) 加古川市スポーツ推進計画関連事業の進捗状況について ＜事務局説明＞
(委員)	中学校の部活動では校区外の生徒が増えてきており、他校とは実力差が出ているところがある。本来は実力が拮抗して競い合うことが理想であり、あまりにも実力に偏りがあるのはどうかという声を聞く。 また、関連事業として記載されている「いきいき百歳体操」への参加者は増加傾向にあり現在は約 3,500 名に上っている。将来的にますます高齢者が増加していくことが考えられていく中で、地域福祉についてどのように考えているのか。
(副会長)	整形外科の中では、健康寿命を延ばすことを推奨している。日々の中に運動を取り入れることによって骨密度が上がったり、元気に過ごせるようになるなど、高齢者や女性にスポーツ活動の啓蒙活動を行うことが必要となってくる。スポーツクラブなどの関係団体に対してパンフレットやチラシを置くなど協力してもらい取組をしていかなければ、なかなか進んでいかないと考える。
(委員)	加古川市の健康施策は大変素晴らしいと思っている。今後も、町内会等を通じて啓蒙活動をしていきたいと考えている。

(委員)	市内中学校の部活動の現状についてであるが、校区外の生徒が部活動に取り組んでいることは確かではあるが、市教委が認めていることであるので現場としては何とも言い難い。しかし、近年は若い教員が増えてきているので、反骨精神を以て一人でも多くの選手が結果を残せるように指導してもらいたい。 また、部活動ガイドラインにも記載されている通り、平日は1日、土日はどちらか1日休むとされており、適切な休養を取りながら部活動に取り組むことは重要である。しかし、ノー部活デーにスポーツクラブ等の協力を得ながら部活動を拡充したいと考えている生徒、教員もおり、スポーツクラブの中にはそのような取組を進めているところもある。すべてのクラブで実施できるわけではないので、スポーツクラブや体育協会とも連携を図ってもらいたい。
(委員)	中学校バスケットボールの外部コーチとして指導をしていた経験があるが、現在の部活動は練習時間が短いことや経験の無い教員が指導しているなどの課題もあり、レベルの差が顕著になっている。生徒が部活動だけでなくスポーツ塾に通い個人技術を学べるなど、スポーツができる環境も整ってきている。多種多様な選択肢があるので、生徒それぞれに合った取組をしてもらいたい。
(委員)	生徒は指導者によって大きく変わるのが現状であり、良い指導者の下に行かせたいという親の気持ちは理解できる。反面、通学が遠くなると行き帰りの不安があるので「校区内で」という考えもある。今後の部活動は、「強くなるためには（長時間の）練習しかない」という昔からの日本的な発想ではなく、限られた時間の中で工夫し、集中して取組んでいくことが大切だ。
(会長)	学校の部活動のあり方を学校教育課と社会教育・スポーツ振興課、市民の意見を含めて考える場をつくっていかなければならない。学校現場だけで考えるのではなく、市全体として、どのようなスタンスで取組んでいくのかを考える時代となってきた。 また、スポーツの競技力向上を含め、総合的に青少年のスポーツについて考えていき拡充していく必要がある。実行団体として加古川市スポーツネットワーク委員会もあるので、その活用も考えてもらいたい。
(委員)	女性がスポーツに参画しやすい環境整備についてであるが、「総合リハビリテーションセンター」の昼間に利用しているのは、大半が女性である。休日のスポーツジムでも女性が多く、女性の方が元気に活動している。

	しかし、女性利用者からはトイレの環境改善の要望が多く、スポーツ以外の環境整備も必要ではないかと考える。女性が気軽に安心してスポーツできる場所があれば参画しやすくなるのではないかと。
(委員)	育児で離職するなど、育児をしていたら外に出て行きにくいという現状もあり、授乳室など子どもを預かってもらえる場所も必要ではないかと。 例えば綱引大会に参加したいが、育児の関係もあり参加できないという声も聞いている。今後、女性がスポーツに参画しやすい環境を整えるには託児も必要になってくると考える。
(会長)	「加古川市スポーツ振興に関する市民調査報告書」の中で、運動不足だと感じるのは特に女性の方が多いように見受けられる。今後スポーツを行うための条件として、「気軽にできる運動、スポーツの紹介」が挙げられているが、具体的にどのようなプログラムやネーミングキャッチをしていくのかを検討する必要もある。加古川市ではネーミングの工夫や、ターゲットを絞った内容で実施できているのか。
(委員)	広報誌を見る限りではネーミングを工夫して募集をしているところもある。4月に太極拳の募集をかけ、以前は「初めての方の太極拳」というネーミングにしていたが、「100歳まで自力で動ける太極拳」とネーミングを変えたところ参加数が増加したので、ネーミングの重要性を感じた。
(事務局)	事業については担当課が分かれているため、計画の関連事業として整理し、ネーミングやターゲットについても他課とタイアップすることによって相乗効果をねらい、募集できるように調整していきたい。
(会長)	他市町でも見られるが、集団の中で皆と一緒にスポーツをすることは減少傾向にある反面、個人として健康への関心は高まっている。スポーツの種目を追求しているのではなく、自らの身体を健康を個人で追求する方向に焦点を当てていくことが今の時代ではないか。スポーツという言葉は競技性のイメージもあり、多くの人が敬遠してしまう側面もあると思う。種目でしぼってアピールをしていくことのデメリットもあることを考える必要がある。 障がい者スポーツの普及について、力を入れてきているように見受けられるが、現状や課題はどうか。
(委員)	障がい者スポーツは理解できるが、実際にどう接していけばよいのかわからない人が多いと思う。兵庫県の障がい者スポーツ大会は三木で実施さ

	れていることが多く、ボランティアやスタッフとして参加してもらえると理解が深まるのではないかと思います。
(委員)	去年は小学校や中学校においてシッティングバレーボール体験に携わった。今年度は、ウィルチェアーラグビーや車いすバスケットボールの実施と聞いている。車いすバスケットボールを中学校で実施していたが、障がい者スポーツ用の用具にどのような工夫がされているかは、実際に体験してみないとわからない。小学生はもちろん中学生にも多く体験をしてもらいたい。 また、社会教育・スポーツ振興課が実施しているスポーツライフセミナーにも関わらせていただいております、指導協力をしているが、スポーツクラブから用具に問題があるという意見も聞いている。実施するからには障がい者スポーツと分け隔てなくできるスポーツ用具への注意も払ってもらいたい。
(委員)	障がい者スポーツの普及ということで、「かこパラスポーツ王国」が8月25日に開催されるとあるが、チラシについては各小学校等に配付しているのか。
(事務局)	各小・中学校、公共施設等に配付している。
(委員)	障がい者スポーツを体験できるよい機会だと思うので、多くの人に参加してもらいたい。
(会長)	「スポーツとの多様な関わり方の提案」と「身近な観戦スポーツの推進」であるが、今後の展望等はあるか。
(委員)	項目が多すぎて取組んでいけるのか心配になる。項目を絞って重点的に取組んでいくことも必要である。
(会長)	「スポーツとの多様な関わり方の提案」については、スポーツを「ささえる」観点から、現在、加古川市にスポーツサポーターが28名いるということであるので、事業がはじまっていると考える。 「身近な観戦スポーツの推進」については、どのような目的があるのか。
(事務局)	地域の方にスポーツを応援してもらいたい。例えば、小学校にベンチ等を配備することにより、試合やその他の催しを気軽に観戦できる環境をつくることなども目的としている。

